

# 令和5年度地域学校協働本部事業 地域学校協働研修会（会津地区）

福島県教育委員会（会津教育事務所）

〈日 時〉 令和5年8月3日（木） 13:20~16:20

〈会 場〉 会津若松市北会津公民館

〈参加者〉 39名（地域学校協働本部関係者・児童クラブ関係者・学校支援関係者・学校関係者・行政関係等）

実践発表 「コミュニティ・スクール設置とその後」

講師 大玉村教育委員会 教育総務課 指導主事 渡邊 博樹 氏

## 1 おおたま学園コミュニティ・スクール

- (1) 設置はそれぞれの学校であるが、運営はおおたま学園として実施
- (2) 同一メンバーによる一体的な運営（学校関係者評価委員も兼務）

## 2 CS委員会の様子 全体会 ⇒ 小グループ ⇒ 全体会

- (1) 話し合う内容に応じて全体会と小グループの形態を使い分け、熟議しやすい雰囲気や場の設定
- (2) 効率化を図るため学校運営協議会を同委員が同時間に同会場で開催

## 3 CS委員会の様子

- (1) 大玉中学校のオープンスクール後に開かれたCS委員会の例
- (2) 大玉中学校の課題 おおたま学園全体で熟議を行う（グループ協議）



【 渡邊 博樹 氏 】

○「地域への恩返し」活動について  
・花畑運動 ・虹の架け橋郵便  
・修学旅行にて大玉村のPR活動 等

### 【受講者の声】

- コミュニティ・スクール設置に向けて準備を進めています。数校で1つのコミュニティ・スクールとなる予定です。数校で進めていく難しさがあり、どう解決するか悩んでいましたが、大玉村の実践を聞いて大変参考になりました。
- 大玉村の子どもたちの自己肯定感の高さに驚きました。異世代間の交流や自分の地域への関わりなど（山登りなど）心に残る活動がいくつもありました。長く続けているからこそその成果だと思います。

講義・演習 「子どもも大人も 学んで楽しい レクリエーション活動の実際」

講師 特定非営利活動法人 福島県レクリエーション協会 常務理事兼事務局長 佐藤 喜也 氏

## 1 子どもの異変 ～昔と今の遊びの違い～

- (1) 「遊び環境の変化」 ⇒ 外で遊ばなくなった子どもたち
- (2) 「食生活・食習慣の変化」 ⇒ 昔の最高のおやつは、おにぎり  
今は、コンビニで好きなものを購入

## 2 心とからだの成長に欠かせない遊び

- (1) 「遊び」の喪失 ⇒ 「時間」「空間」「仲間（人間）」の喪失
- (2) 体力・運動能力の低下 ⇒ 怪我の増加・不器用な動き（巧緻性の欠如）

## 3 子どもの遊びにおける大人の役割

- (1) 「媒介」の後に始まる「見守り」、「介入」、「寄り添い」
- (2) 適切な「介入」と「寄り添い」は観察から始まる



【 佐藤 喜也 氏 】

○当日行ったレクリエーション活動について  
・イヌネコワンニャン ・おやゆび中外  
・グーパー&バリエーション ・トントンスリスリ 等

### 【受講者の声】

- 場を和ませてくれる、交流のきっかけを作ってくれる、深めてくれるレクリエーションの効力を感じることができました。また、「支える」、「寄り添う」ことの大切さを感じることができました。
- 子どもの放課後活動の支援をしています。活動中、うまくできずに不機嫌になる子どもにどう接すればよいか悩むことがあります。寄り添うことが大切なのだ気がつきました。自分ではなく相手（子ども）に元気になってもらえるよう活動していきたいと思っています。